

警戒レベルとは

避難情報等の発令時に参考とされる気象情報



※メディア等で提供される「警戒レベル相当情報」とは、気象庁が発表するものであり横浜市が発令する警戒レベルではありません。

出典:「防災よこはま」(横浜市総務局危機管理室危機管理課発行)

警戒レベルに応じた 皆様がとるべき避難行動等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令 (横浜市が発令)
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難場所へ避難 しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所へ避難したり、自宅のより安全な場所に避難したりしましょう。	避難勧告・避難指示(緊急) ※地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合等に発令 (横浜市が発令)
警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(高齢者・障害のある人・乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (横浜市が発令)
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等で自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発令)
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発令)

警戒レベルについて詳しくは、内閣府ホームページを確認してください。 警戒レベル 内閣府防災 検索

出典:「防災よこはま」(横浜市総務局危機管理室危機管理課発行)

保存版 緑区 避難行動 (安全確保) マニュアル



横浜で30年以内に震度6弱以上の地震が起きる可能性は82%といわれています。大地震は今日起こるかもしれません。また近年は台風等の自然災害も猛威を振るっています。

私たちは地震だけではなく、風水害や火災などさまざまな災害の備えをしなくてはなりません。

避難所は**プライバシー**の問題や、大勢の人が**密集**することもあり、快適に過ごせるとは限りません。

住み慣れた自宅で過ごせるよう「**在宅避難**」の準備はもちろん、避難所や避難場所に行く際に必要な備えや、自分の命を守る避難行動の準備を常におきましょう。



問合せ 緑区総務課庶務係 930-2208
寺山町118 930-2209

災害時に役立つ備蓄・持ち出し品

- 救急・安全
 - 救急セット 常備薬 体温計 ヘルメット
 - マスク 厚底の運動靴 軍手
- 貴重品
 - 預金通帳 現金 カード 免許証 保険証 印鑑
- 日用品
 - 携帯ラジオ 懐中電灯 ティッシュ 紙おむつ
 - ビニール袋 携帯トイレ 生理用品
- 衣類
 - 衣類 タオル
- 3日以上の水・食料
 - 1人9リットルの飲料水 非常食
 - 紙皿 紙コップ 粉ミルク

※自分自身や家族の性別・年齢等を考慮して必要な備蓄品を選びましょう

ローリングストックをお勧めします

日頃から自宅で利用しているものを少し多めに買って置き、使ったら新しく買い足す方法を「ローリングストック」といいます。

日常の中で消費して備蓄品の鮮度を保ちながら常に一定量の食料を家庭に備蓄できます。

特別な準備は必要ありません。ぜひローリングストックを始めましょう。



自宅に留まる 在宅避難の勧め



自宅が無事ならば、あえて避難所に避難する必要はありません。プライバシーの確保が難しい避難所生活より、住み慣れた家で過ごすほうがストレスの少ない避難生活を送ることができます。2～3ページのフローチャートで在宅避難について確認してください。

在宅避難時は、地域防災拠点で「在宅避難者」の登録をしてください。

2～3ページのチャートで確認しましょう

緑区役所で配布しています



防災よこはま
大地震や台風、土砂災害など災害に対する事前の備えやご家庭・地域での話し合いなどに役立つ情報を掲載しています。

緑区洪水ハザードマップ
緑区内の鶴見川水系の河川での氾濫予想・浸水想定区域を記載しています。

みどり区ガイド・防災マップ
緑区内の地域防災拠点や広域避難場所、医療関係機関の所在地等を掲載しています。

よこはま地震防災市民憲章 ～私たちの命は私たちで守る～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。

大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。

私たち横浜市民はそれぞれが持つ市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やって来る。今日かもしれない、明日かもしれない。

だから、私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。

だから、私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。

不安の中の避難生活。けれどみんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。

だから、私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。

だから、私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。

平成25年3月11日制定

事前の備え・災害時の情報収集

■ 横浜市Webサイト

災害時の緊急情報や、日頃の備えである自助・共助・公助の取組について掲載しています。

横浜市 防災・災害 検索

■ わいわい防災マップ

洪水ハザードマップの情報など、横浜市のさまざまな地図についての情報が検索できるサイトです。

横浜市行政地図情報提供システム 検索

■ 緊急速報メール

横浜市内のエリアにある携帯電話(NTTドコモ・KDDI (au)・ソフトバンクモバイル・ワイモバイル・楽天モバイル)に、横浜市の災害情報や避難情報などが配信されます。登録は不要です。

■ Yahoo!防災速報

横浜市からの防災緊急情報を受信できます。二次元コードからアプリ版をダウンロードするか、メール版を登録してください。

Yahoo!防災速報 検索



■ 横浜市総務局危機管理室の公式Twitter

市内で広域的な災害が予測される場合の避難等に関する情報や、災害対策本部体制下における災害等に関する情報、特別警報、警報、一部の注意報の発令解除情報を発信します。

Twitterアカウント @yokohama_saigai

横浜市総務局危機管理室ツイッター 検索

緑区災害時避難行動

台風

台風は事前に予測できます。台風が近づく前に情報を集め、必要な準備をしておきましょう。

事前チェックポイント

台風の時期が近づいたらチェックしておきましょう

- 土砂災害・浸水害の可能性など、自宅の危険性
→4ページ掲載「緑区洪水ハザードマップ」を活用してください
- 避難が必要になったときの避難場所(知人宅・指定緊急避難場所等)
- 避難用持ち出し品の確認

大型台風発生



警戒レベル1・2

災害への心構え・避難に備えた確認

テレビ、インターネット、ラジオなどで警戒レベルの状況などを情報収集してください。また、事前チェックポイントを改めて確認しましょう。

警戒レベル3

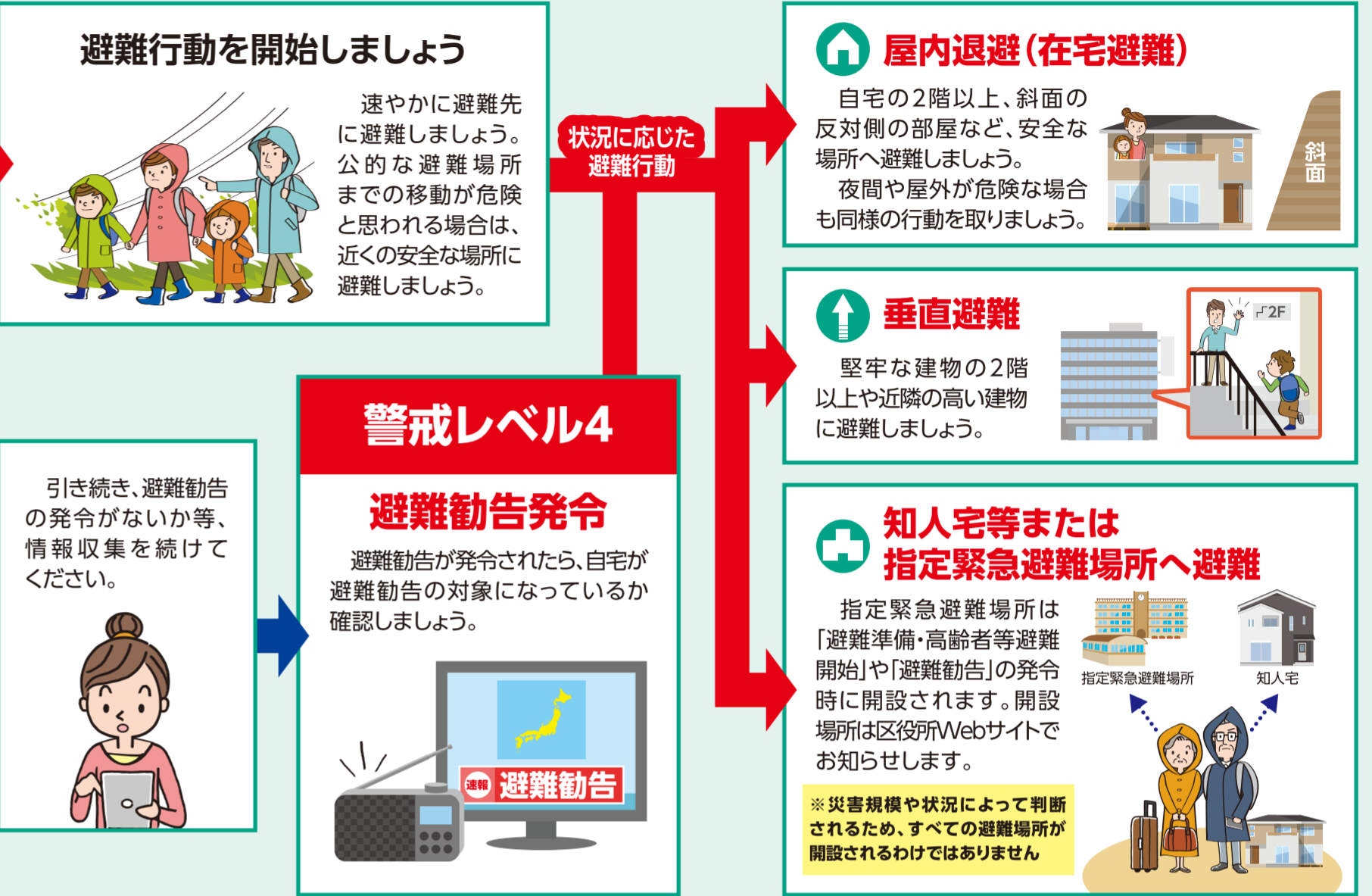
避難準備・高齢者等避難開始の発令

次のいずれかに該当しますか。

- 避難に時間を要する人(高齢者、障害のある人、乳幼児等)とその支援者
- 自宅が土砂・浸水害警戒区域内にあり避難に時間が必要

フローチャート

※警戒レベルの詳細・レベルに応じた避難行動などの詳細は4ページに掲載しています



地震・地震火災

大地震はいつか必ず起こります。地震に備えておきましょう。また、地震で被害を拡大する大きな原因の一つは火災です。火災にも備えておきましょう。

事前チェックポイント

- 自宅の耐震化
- 家具等の転倒防止
- 水・食料の備蓄確認
- 自宅の火災報知機の点検
- 自宅周辺の消火器具の確認
- 広域避難場所の確認
- 地域防災拠点の確認
- 消火訓練などへの参加

震度5強以上の地震発生

① その場にあった身の安全

まずは、身の安全を図り、揺れが収まるまで、様子を見ましょう。



② すばやい火の始末

火を使っているときは、揺れが収まってから、慌てずに火の始末をしましょう。出火した時は、落ち着いて消火しましょう。



③ 隣近所の助け合い

隣近所の安否を確かめ合いましょう。隣近所の協力は、大きな力になります。



地震の三原則にのっとり行動を取ってください。

※津波は緑区には来ませんが、もし、海や河川の近くにいる場合は、より早くより高い場所に避難しましょう。

周辺で火災が発生していますか



発生している

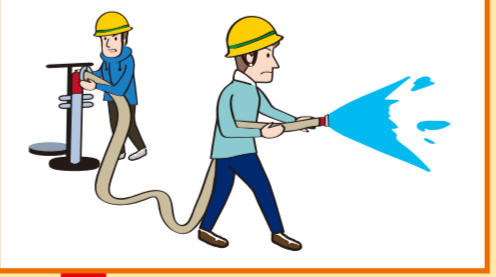
119番通報

消火活動が可能ですか

自宅で生活できますか



自治会で設置しているスタンドパイプ等を使用し、協力して消火にあってください。消火したら自宅の周辺状況を確認してください。



広域避難場所へ避難

大火災時に、熱や煙から生命・身体を守るために避難する場所です。



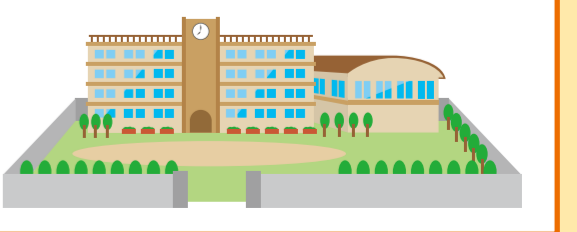
在宅避難

周囲の安全が確認できたら、地域防災拠点で在宅避難者の登録をしてください。在宅避難については4ページも確認してください。



知人宅等または地域防災拠点

市内1か所でも震度5強以上の地震を観測した場合に開設されます。緑区内22か所の小中学校等、一時的に避難生活を送る場所です。



通電火災防止のため、自宅を離れる際はブレーカーを落としましょう

困難・危険